

武相観音霊場は、武蔵国と相模国にかけて開かれた、歴史ある四十八の札所です。十二年に一度、卯歳に御開扉を行うので、卯歳観音と称しております。開創は江戸時代中期。それぞれに信仰されていた寺院が連携して、その記念すべき第一回の御開扉を宝暦九年（一七五九）に実施しました。それから時を移すこと二百五十年余り。このたびの平成二十三年で第二十二回を迎えることができました。

観音とは「観世音菩薩」の略称で、「観自在菩薩」ともいいます。仏像にはたくさんのおさまがありますが、その中でもつとも親しまれ、人気をほこる仏、それが観音さまです。日本での観音信仰は、古く飛鳥時代より始まり、続く奈良、平安時代に盛んになったといわれています。観音さまを祀る聖地を巡る、いわゆる巡礼もこの頃より全国に広がっていききました。

有名な『観音経』には、観音さまの加護を一心に念ずれば、この世のさまざまな苦難を除くと説かれ、また観音みずからが人それぞれの性格や資質に合わせて、さまざまに姿を変えて現れ、法を説くとしています。さらに観音さまは阿弥陀如来の脇侍として、極楽浄土よりお迎えに来てくださるともいい、現世来世を通じて自由自在に利益を授けてくださる仏として、絶大な信仰を集めてきました。「仏心とは大慈悲これなり」とは『感無量寿経』というお経の一節ですが、誰れ彼れの別なく慈悲の手を差しのべて私たちを救って下さるといふ観音さまは、その優しい面立ちや堂々としたお姿を見ても、まさに慈悲の具現者といふべき仏です。

今、このご朱印帳を手にされている方は、どんな思いで巡礼をされるのでしょうか。通常拝見できない観音さまをこの機会にお参りしてみようと思つた方、お寺からの案内で合同参拝に申し込んだ方、札所巡りが好きで各地の霊場をお参りしている方、縁の多いこの地域で、草花を愛でながらのご旅行を思い立った方…。信仰のため、亡くなった方への供養のため、祈願成就のため、健康のためと、人によって目的はさまざまでしょう。霊場巡りは、そのあり方をすべて温かく受け入れるために開かれています。

厚く信仰され、秘仏として大事に守られてきた武相観音霊場の観音さま。この観音巡りの旅が、多くの方の心の糧になりますよう、願っております。